

●前回(4月13日2限)の振り返り

1 「最近『美しい』と感じたこと」

「桜」と答えている人が目につきました。

私も考えてみると、「満開の桜」を見て美しいと感じました。車を運転していると、近所に咲いていた桜に目を奪われ、心がぎゅっとなり、そして、ふんわりと華やいだ心地になりました。「桜」といっても様々です。「桜」とだけ書いた人は、どんな「桜」であったのか詳しく書くと、その美しさと感動がより深く伝えられると思います。

また、人間の行動に対する「美しさ」を捉えている人もいました。「美しさ」にもいろいろありますね。

2 難しくて何回か読み直した人もいるようです。文章は、何回も何回も読み直してください。読み直すことによって、理解できるようになったり、違う発見ができたりします。それが、文章を読む面白さです。

3 普段使わない言葉がでてきているので、面倒に思わずに、意味を調べましょう。文章を理解する手がかりになります。

4 【解答例】

〈構成1〉

美的装飾がなく、必要のみから形態が出来上がっている点。

何も補わなくても、まっすぐに心を感動させ、郷愁を感じさせる点。

我々の実際の生活が実質として表現されている点

〈構成2〉

「小菅刑務所」「ドライアイス工場」「駆逐艦」などは、必要から生じ、虚飾がなく、真実の生活に根ざした「美」であるのに対して、「法隆寺だの平等院の美しさ」は「美しさのための美しさ」であり、空虚である。

【解答解説】

〈構成1〉

「必要」「郷愁」「生活」が、本文中でどのような意味で使われているのか、キーワードを探して、その周辺を読んで理解し、まとめていきましょう。

※「必要」というキーワードを探してその周辺を読みましょう。

★一切の美的考慮というものがなく、ただ必要に応じた設備
(=ドライアイス工場 P 2 8 6 L2)

上記の部分は、小菅刑務所について書かれた部分にも似たような
言い回しがあります。

★この大建築物には一か所の美的装飾というものもなく
(=小菅刑務所 P 2 8 4 L9)

※「郷愁」というキーワードを探して、その周辺を読みましょう。

★この工場は僕の胸に食い入り、遙か郷愁につづいていく大らかな美しさがあった。
(P 2 8 6 L7)

★小菅刑務所とドライアイス工場は、もっとも直接突き当たり、補う何物もなく、
僕の心をすぐ郷愁へ導いて行く力があった。(P 2 8 6 L1 5)

※「生活」というキーワードを探してその周辺を読みましょう。

P289L16～P290の中に「実際の生活が魂を下している限り、これが美しくなくて、何
であろうか。」という一文があります。「小菅刑務所とドライアイス工場」は、「実際の生活
が魂を下している」「必要」なものであり、「文学」と同様に「やむべからざる実質」です。
P289L3までを「小菅刑務所とドライアイス工場」と「文学」について述べられていること
を比較しながら、共通点を見つけ、読んでいきましょう。

〈構成2〉

P 2 8 9 L3 までを読んで、「小菅刑務所」「ドライアイス工場」「駆逐艦」についての内容を
まとめましょう。

P 2 8 9 L9～L1 3 までを読んで、「法隆寺だの平等院の美しさ」についての内容をまとめ
ましょう。